



力ナタ紀行・続編

町長 森 善一郎



私達第二町会文化部旅風会  
三二名一行はバンフに到着後  
雪景色を見ながらレストラン  
で鱒のムニエル料理をワイン  
と共に美味しく皆で楽しく過  
ごし2階の部屋より雪の景色  
を見ながら、『イブモンタン』  
の歌雪が降るを想い出しながら  
街灯の明かりに降りそぞぐ  
雪、静かにねむるホテル9時  
出発雪の降る中サルファーム  
でゴンドラに乗り頂上へ寒さ  
と視界が悪く早めに到着駅へ

★思い出のコトナリ  
私のふるさと大連  
日渡修

昭和2年に親父は会社の命により大連に渡り昭和6年により生れ、太平洋戦争敗戦後の昭和22年に日本へ引揚げるまで私は16年間、現在は中国のかの地で育ち生活して来ました。大連は遼東半島の南端で三方を海に囲まれた青泥窪<sup>チヨウニイワ</sup>という小さな漁村でしたが、19世紀末に帝政ロシアが租借権を得てからダルニーと命名してパリを模した放射状の街路を持つ街を建設し始めました。日露戦争の結果勝利した日本が大連と改名し計画を引き継ぎ進めて東洋に誇る不凍港と異国情緒に漂う港町を造り上げたのです。至る所にボラ・プラタナス・アカシヤの並木道があり、特に5月に白い花咲くアカシヤは甘い香りで街を包みます。自宅の前の歩道にもアカシヤの並木がありました。私は日華事変が



昭和17年3月 12才自宅

て來た昭和18年に大連第二中学校に入学しました。軍事体制が益々強化され毎日が軍事教練の中で生活して來た様なもので、服装は国防色カーキ色の上衣と長ズボンの制服を身につけ校章を縫い付けた戦闘帽を被り巻脚絆を巻き靴を履き背嚢を背負い木銃を担いで登上校しました。次第に勉学は二の次になり、木銃による銃剣術の稽古や匍匐前進等の軍事教練が主体で草臥れました。三年生になると勤労動員があり終戦まで毎日汽車で通い、二駆先の沖電気株周水子工場で中国の娘さんと一緒に電流計のコイル巻の仕事をしました。また駅と工場の間の一糠半の道程を往復軍歌を歌いながら行進しました。終戦から引揚げまでは衣類・家財を売りつくしての竹の子生活で親達が大変苦労した様です。現今の大連はスクランブルアンドビルドで現代的な高層ビルの建築物が建ち並び大変貌しています。私の家・小学校・

外は吹雪模様で雪が降り続  
いていて、未だ12月の末とい  
うのに積もつた雪は人の背丈  
に達する。あなたあ！。玄関  
の前だけは雪掻きをして下さ  
いよ、男の仕事でしょ。奥さ  
んの声が響く。

外は晴天で初夏の心地よい  
風が吹き抜ける。5月になり  
やつと畑仕事が始まつた。あ  
なたあ！。耕すことだけはき  
ちつとやつて下さいよ。疲れ  
て休んでいる夫の耳に奥さん  
の声が響く。友人のT氏は定  
年になつてから2年程他の職  
場に勤めた後に自然の中で自  
給自足する生活に憧れて、岩  
手県の山奥に移り住んできた  
周辺は開拓地で酪農家が点在  
している。弟夫婦と共にで三  
千坪の土地を30年前に取得し  
ていたが、土地の値段は非常  
に安かつたという。もししかし  
たら投機だつたのかも知れな  
いが、失礼になるのでそれは  
聞けずじまい。野菜作りは広

学校に入学しました。軍事体  
制が益々強化され毎日が軍事  
教練の中で生活して来た様な  
もので、服装は国防色カーキ  
色の上衣と長ズボンの制服を  
身につけ校章を縫い付けた戦  
闘帽を被り巻脚紺を巻き靴を  
履き背嚢を背負い木銃を担い  
て登下校しました。次第に勉  
学は二の次になり、木銃によ  
る銃剣術の稽古や匍匐前進等  
の軍事教練が主体で草臥れま  
した。三年生になると勤労動  
員があり終戦まで毎日汽車で  
通い二駅先の沖電気(株)周水子  
工場で中国の娘さんと一緒に  
電流計のコイル巻の仕事をし  
ました。また駅と工場の間の  
一糠半の道程を往復軍歌を歌  
いながら行進しました。終戦  
から引揚げまでは衣類・家財  
を売りつくしての竹の子生活  
で親達が大変苦労した様です  
現今の大連はスクラップアン  
ドビルドで現代的な高層ビル  
の建築物が建ち並び大変貌し  
ています。私の家・小学校・

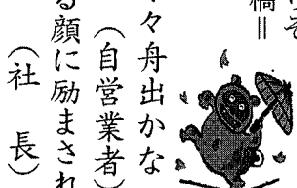
中学校の建物は既に消えて無く住んでいた頃の面影は大分少なくなっていますが、大连は私のふるさとに変わりありません。最後に日本と中国との関係が一層友好に進むことを祈ります。



ばた雪の舞ひ来る見れば  
花だよりに  
聞きし陽春逃げて行くやも  
春うらら刻ゆるやかに鐘をつく  
とき  
願い新たに寒山寺かな  
唐代の詩人の像は囁やけり  
拙政園で悟りえたかと

大きな土地のほんの一隅で行なつていいが、とても食べきれない。売るこども出来ないから殆ど捨てる事になる。労働の対価から見れば全く割に合わない。救いは自然が豊かであつて、北東北の山々が遠く重なり合い少し足を伸ばすと八幡平の温泉が群落をなしている。客人を遇するのに露天風呂に案内してハシゴしたら、あとで腰が抜ける程疲れたと風の便りに聞こえてきた。

うだ。 続ける事になりそ  
川柳 // 投稿 ||



サラリーマンが管理職となって責任ある地位に着くと、多くの人は仕事の重圧と人間関係に悩み、その心労たるや他人に理解される事はない。十数年前、悩みを抱え、気分転換を図るために、休日は必ずガイドブックを片手に、ぶらり散歩に出かける習慣ができた。昔日の事が懐かしく、今日は江戸中期の俳人で73才の長寿を全うした女性、加賀千代女の軌跡を再び訪ねてみた。「朝顔に釣瓶」とられてもらひ水」と詠んだ朝顔の井戸が、泉岳寺の傍の日蓮宗・薬王寺の境内にある。門前に「史跡・朝顔の井戸」と表示があるが、十数年前の記憶とは違つて井戸は荒れている。前には確か東京都指定文化財と立看板があつた筈だが、その看板も無くなっている。公衆電話で港区役所の文化財課に問い合わせて確かめたところ、あの薬王寺にある朝顔の井戸は都の文化財に指定された事はありません、との返事であった。何だろう? 狐につままれた思いがした。早速に女性史辞典で調べて見ると千代女には、とかく伝説が多く確証のあるものは少ないと書かれていた。十数年前にぶらり散歩で訪ねた際には、井戸が墓地の中にある事にショックを受けたが、今度は史跡が本物なのか確証の無い事にショックを受ける事になつた。なお千代女は安永4年(1775)に死没。辞世の句は、月も見て我はこの世をかしく哉。早咲の桜の花を見ながら一日かけて、十数年ぶりの感慨に浸つたが、この散歩、懐かしい対象が沢山あるので、当分は続ける事になりそうだ。

られるるにいたり、女性の身に具わるべき一切の秘密が悉く明るみに出され展示されたとある。真に残虐そのものの振る舞いであるが、全てボーゲー司教ピエール・コーシヨンの取り仕切つた処刑裁判と死刑執行であつた。コーシヨンは涙ながらに訴えるジヤ

町会の旅行会でパリから国道四百キロのモンサン・ミッシェルへ行くバスの中で、フランス在住33年という識見の豊かなガイドにジャンヌ・ダルクについて語つてもらつた。実在のジャンヌはどのような少女だったのか。羊飼い娘のジャンヌが13才で神のお告げを受け始め、17才で戦場に赴き1431年5月31日に19才でイギリス軍により火刑に処される迄の話をくわしく話してくれた。いろんな異説を唱える人も居たが、ジャンヌについて伝えられている事は概ね事実だという。ジャンヌについての資料は、裁判の際の記録が現存する記録の中でも最良の記録という事であるので、帰国してからジャンヌの処刑裁判と処刑後25年経つて開かれた復権裁判の記録をくり返し読んで見る事にした。復権裁判では、処刑裁判の判決は、欺瞞、中傷、不正、矛盾、過誤に汚されており、無効で破棄されるべきと宣言している。しかもジャンヌは戦場でフランス軍を鼓舞こそすれ、敵兵を一人も殺していないといふ。火刑に立会つた聖職者の一人は、「処刑場に居合せた人はおそらく一万人は集まつていたが、皆が涙を流し、嘆き悲しんでいた」と証言している。そしてイギリス軍はジャンヌの死を群衆に見付ける為、一旦、火を遠ざけて裸の体を曝した上、再び薪に油を注いで焼き尽くし、遺灰は全てセーヌ川に流したという。パリの一市民の日記の叙述には「かくして、全群衆によつてジャンヌの全裸体の姿は見られるにいたり、女性の身に具わるべき一切の秘密が悉く明るみに出され展示された。

「ふれあいのひろば」の紙面  
は町会員の皆様の集まる「広  
場」です。思い出、旅行記、隨  
筆、感想文、その他の何でも結  
構です。ただし、思想、信条、  
宗教、プライバシーに係わる  
ものは、受付できません。原  
稿は左記まで。

シヌに對して、ジャンヌよ、  
諦めなさい、と言つて、刑場  
に引出した。空席であつた大  
司教の座をねらい、占領國の  
イギリス國王におもねつて、  
ジャンヌに死を齎した報いは  
住民の非難の中で、コーシヨン  
裁判長と検事役、補佐役の  
首謀者三人は、突然死、変死、  
業病死と、それぞれ悲惨な最  
後を遂げている。多くの人達  
が罪の報いと思うのは当然で  
あろう。

## お知らせコーナー

律生部

お知らせ／ーナー

## 町会の趣味の会へ御参加を

- ・囲碁、将棋の会 月2回開催
- ・ゴルフの会 例会 隔月開催
- ・釣りの会 海、川、投げ釣り
- ・旅行の会 海外旅行 年一回
- ・ゆりの会（健康体操）月2回

問合せ＝お近くの町会役員へ

### 桜の花を見ながら歩く会

赤十字募金へ協力	予定 4月10日
スイス旅行	5月
17年度第一回理事会	6月6日出発 8日間 4月23日



## 守ろう「ゴミ廃棄ルール」

●蜃氣樓●

ンヌに對して、ジャンヌよ、  
諦めなさい、と言つて、刑場  
に引出した。空席であつた大  
司教の座をねらい、占領国の  
イギリス国王におもねつて、  
ジャンヌに死を齎した報いは  
住民の非難の中で、コーチョ  
ン裁判長と検事役、補佐役の  
首謀者三人は、突然死、変死、  
業病死と、それぞれ悲惨な最  
後を遂げている。多くの人達  
が罪の報いと思うのは当然で